



大図研京都ワンディセミナーのご案内

タイトル：「障害学生支援の新たな潮流：大学における障害学生支援課題と図書館の実践報告」

概要：近年「大学の大量化・ユニバーサル化」が叫ばれ、多種多様な学生がキャンパスの中にいます。また、激しい競争の中、大学には「教育の質保証」が強く求められています。入学した学生に学ぶ環境をどのように提供していくのか、さらに、当初からハンディをもった学生に対して「学ぶ権利」をどう保証していくのかなど、大学は大きな課題を抱えています。

そうした中、2010年1月から施行された改正著作権法の下で視覚障害者等に対してサービス実施を促すために、国公立大学図書館協力委員会、全国学校図書館協議会、全国公共図書館協議会、専門図書館協議会、日本図書館協会の5団体からガイドラインも発表されました。

今回、村田氏から、大学における障害学生支援の総論、京都大学における障害学生支援の状況と図書館での対応についてお話し頂きます。次に、河野氏、丸山氏から、立命館大学図書館でテスト運用を始めた視覚障害学生に対する所蔵図書デジタル化サービスの実例を紹介して頂きます。

現在、多くの大学では視覚障害をはじめとするハンディを持った学生が学んでいますが、大学として何ができるのか、図書館が何ができるのかを皆さんと考えてみたいと思います。

講師：村田淳氏（京都大学 身体障害学生相談室 相談室員）
 河野恵美氏（立命館大学 教育学部 共通教育課
 サービスラーニングセンター 障害学生支援室 主事）
 丸山浩史氏（立命館大学 図書館サービス課）

日時：2010年12月18日（土）13:30～16:45（13:15～受付開始）

場所：京都私学会館 205 会議室（地下鉄四条駅、阪急京都線烏丸駅下車 徒歩5分）

<http://www.kyt-shigakukaikan.or.jp/access.html>

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費：大図研会員は無料 / 非会員は500円（参加費は当日、会場にていただきます。）

申込方法：事前申込制とさせていただきます。12月16日（木）までに、次のいずれかの方法でお申してください。申込多数の場合、会場の収容人数を考慮し、早めに締め切らせていただくことがあります。お早めにお申し込みください。

- ・大図研京都支部のサイトから、大図研京都ワンディセミナー申込フォームで申し込む。
- ・支部委員会(kyoto@daitoken.com)宛に(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4)懇親会に参加するか否か、(5)E-mailを知らせる。
- ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館 赤澤久弥(FAX: 0742-27-9147)宛に(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4)懇親会に参加するか否か、を知らせる。

ご不明な点などございましたら、京都支部 支部委員会(kyoto@daitoken.com)までお問い合わせください。

[目次]

大図研京都ワンディセミナーのご案内	…	1
支部委員 挨拶	…	2
第41回全国大会報告	…	6
大図研京都支部忘年会のご案内	…	8

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm

支部委員 挨拶

大図研の年度は7月に替わります。2010年度の開始に伴いまして、支部委員を務めさせていただきます10名よりご挨拶いたします。今年度は2名の新しい委員が加わりました。これからも大図研京都支部をどうぞよろしくお願ひします。

● 赤澤 久弥 (支部長)

引き続き支部長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、京都支部ではWebページ、メールニュースYurikamome等で情報を発信するとともに、セミナーや支部報など、会員の皆さまにご参加いただける場をご用意しているところです。ただ、現在課題と感じていることは、セミナーには多数のご参加をいただいているものの、支部会員の皆さまからの参加が必ずしも多数ではないこと、また支部報にあまりご寄稿いただけていないことです。

ところでセミナーへ参加することの意義は、日々の業務へ活かせる知識と刺激を得ることはもとより、その場で講師や参加者との新たな出会いを得ることがあろうかと思ひます。しかし、支部委員としての個人的な経験ながら、一参加者に留まることなく、運営する側に立つことで企画を実現する経験を得たり、ときには発表する側にまわったりすることで、より深く問題を掘り下げることができると感じています。そしてそうしたことによって、セミナーで得られる「価値」は、いっそう高まるのではないのでしょうか。それは、支部報に日々の問題意識に拠ること、ときには気軽なエッセイであっても、形として現してお寄せいただくことも、また同様に思うのです。

さて、図書館を巡る環境が厳しさを増しつつある昨今、職場では目の前の仕事をこなすだけで、それ以上のことをするのは難しいのが現状かもしれません。そこで、支部会員の皆さまには、「大図研」という場を多いに活用していただき、セミナーの企画運営に関わっていただいたり、また発表や支部報へご執筆いただいたりすることで、日常業務では得がたい「プラスアルファ」の価値を大図研から受け取っていただければと思ひます。

口幅ったいことを述べてしまったかもしれません。もちろん、京都支部としては、会員の皆さまに、より気軽に活動に参加していただける「仕組み」をご用意しなければなりません。ついては、支部活動へのご意見やご要望等、積極的にいただけると幸いです。その上で皆さまのより多くの支部活動へのご参加をお待ちしております。

今年度も京都支部をどうぞよろしくお願ひいたします。

あかざわ ひさや (奈良教育大学学術情報研究センター図書館)

● 安東 正玄 (研究企画 / メールマガジン / Web サイト運営)

昨年のワンディセミナー参加をきっかけに加入しました新参者です。10年前に図書館で勤務していましたが、情報システム部、学生部、組合専従を経験後、昨年3月古巣の図書館に戻りました。この10年間の図書館を取り囲む情勢が大きく変化していたのに驚くとともに、図書館の新たな可能性を感じています。

なんでもちよっかいを出したがる悪い癖があり、現在も組合の特別執行委員、京滋私大教連書記次長、北上地区労常任幹事、私立大学図書館協会ホームページ委員も兼ねており忙しいながら充実した生活を送っています。

ともに頑張りましょう。

あんどう せいげん (立命館大学 図書館サービス課)

● 池田 貴儀 (研究企画 / 支部報編集)

引き続き支部委員を務めさせていただきます、原子力機構の池田です。今年度も「研究企画」と「支部報編集」を担当し、ワンディセミナーや支部報を通じて、会員の皆様にとって有意義な交流の機会を提供していくことができればと考えています。また、京都支部以外の大図研の活動としては、常任委員、会報「大学の図書館」の編集委員も引き続き務めます。よろしくお願いたします。

いけだ きよし (日本原子力研究開発機構 研究技術情報部)

● 金森 悠一 (研究企画 / 支部報編集 / 支部報印刷と発送 / Web サイト運営)

支部報をお読みのみなさま、本年度より支部委員となりました金森です。どうぞよろしくお願いたします。

今年度は社会人としての勤め始めの年でもあり、色々なところで挨拶をしています。大図研京都支部のことは6月のワンディセミナーで初めて知り、懇親会では閉会の挨拶をさせていただきました。そしてその場で支部会員になり、気がつけば支部委員です。社会人になるに当たっての第1の目標が色々な行事に積極的に関わっていこうというものでしたので、良い機会が得られたと思っています。

さて、今回はこの支部報の編集も担当しています。とはいえ、内容の案は西野さんにご提案いただきましたし、文章のチェックは支部報編集担当の方々を中心に支部委員の皆さまにご協力いただいておりますので、とてものびのびとやらせていただきました。ご意見・ご感想等ありましたら、直接でもメールでも構いませんのでお待ちしております。

この大図研という団体は先導していくのは支部委員かもしれませんが、企画等を盛り上げていくためには会員皆さまのご協力が必要だと思います。是非次回のワンディセミナーにも積極的にご参加いただき、ご自身の勉強と活発な議論の場を作り上げていきましょう。また、他の方々も書かれています、京都支部ではワンディセミナーの企画に携わりたい方を募集しています。案はあるけど1人では実現できないと思っていられる方、この機会に一緒にやりませんか？お待ちしております。

かなもり ゆういち (京都教育大学附属図書館)

● 坂本 拓 (支部報編集 / メールマガジン / 組織・財務)

先日、うちの職場で大きなワークショップを開催しました。エルゼビアとうちの先生にご協力いただいた英語論文投稿の講座だったのですが、予想外の人数の方々に来ていただき、大成功を収めることができました。この企画が上手く行った要因は、運が良かったのと、うちの先生方・そして周りの図書室の方々が非常に好意的にサポートしてくださった、というところが何より大きいです。

しかし、私が大図研京都支部の支部委員をつとめた4年間、かなりの数のセミナーに、運営するスタッフとして関わる貴重な経験を積ませていただくことがなければ、

このワークショップをマネジメントすることは勿論、最初に着手する気を起こすことさえできなかつたと思います。講師との企画相談、適切な日程調整、参加者数を見積りつつの会場の確保、広報、当日の運営、これらはどれも京都支部がセミナーを開催する時に、私たち支部委員が、楽しみながら担当させていただいている業務です。ペーペーの人間が、これらの経験をコンスタントにつめる場所なんて大図研以外そうありません。

今年もまた、一年間いろいろなことを経験させていただけることを嬉しく思うと同時に、少しでも多くの方と一緒に、セミナーの企画・運営などの体験を共有したいと思っています。みなさん！私たちと一緒に「セミナーの企画・運営に携わってみたい！」と思われる会員の方を募集してます！ぜひぜひ一緒にいろいろ楽しくやりましょう！そして、その後に美味しいビールを飲みましょう！

さかもと たく (京都大学工学研究科・工学部地球系図書室)

● 辰野 直子 (研究企画 / メールマガジン)

引き続き支部委員を務めさせていただきます。今年度は「メールマガジン」「研究企画」を担当します。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

「研究企画」はここ数年担当させて頂いておりますが、今年度は、ベテランの池田さん、今年度から支部委員となった安東さん、金森さんの4名で、これまでとは違った新たな視点でセミナーを企画していけるのではと思っています。

また、今年度は新たな試みとして、支部委員以外の会員や会員以外の方にもセミナーの企画段階から関わって頂くことを考えており、近くメンバーを募集予定です。実現させたい企画案がある、セミナーがどのように企画実施されているか興味がある、なんとなく参加してみたい、等等、動機は問いません。セミナーを企画し実現させていく過程は、楽しく充実したものです。多くの方に、その楽しさや充実感を味わって頂ければ嬉しく思います。みなさまのご応募をお待ちしています。

たつの なおこ (京都大学農学研究科生物資源経済学専攻司書室)

● 長坂 和茂 (支部報印刷と発送)

今期で支部委員として3年目になります、京都大学経済学部図書室の長坂です。

3という数字はとても区切りがいいですね。例えばことわざでも、3という数字はよく出てくるように思います。例えば、石の上にも三年とか、仏の顔も三度までとか、三顧の礼とか、天下三分の計とか……ことわざじゃないですけど、三国志も3ですよ。

と、キャラ設定を思い出していただいたところで、本題に移りたいと思います。

三国志に出てくる故事成語で3が付くもので、今挙げたものの他に「士、三日会わざれば刮目して見るべし」という言葉があります。原文は「士別三日、即更刮目相待」(三国志 呂蒙伝注江表伝)なので、だいぶ意識が入っていますね。

呉に仕えていた呂蒙という武将は昔は武勇一辺倒の武将でしたがある日君主である孫権に学問を勧められて以降学問にも励むようになり文武両道の智将へと成長しました。その呂蒙の駐屯地の近くを当時呉の参謀(というか総司令官というか……説明しづらいです)を勤めていた魯肅が通りかかります。呂蒙と語り合った魯肅はその

学識に驚き「呉下の阿蒙に非ず」と発言。それに対して呂蒙が応えた言葉が、「士、三日会わざれば……」なのです。

「阿」は「～ちゃん」のような意味で幼名によく使いますので、「阿蒙」は「蒙ちゃん」みたいなニュアンスです。また、「蒙」は「無知蒙昧」の蒙ですので、ずばり「バカ」といった意味もあります。呂蒙の名の「蒙」と「バカ」の意味の「蒙」をかけているわけです。

つまり魯肅が「もう、呉の町にいたおバカの蒙ちゃんじゃないんだな」といったのに対して、「三日間も会わなかったらもう別人のように成長するものなのだから、ちゃんと目を凝らして見直さなくてはなりませんよ」と応えたわけですね。

というわけで、呂蒙ほどの「士」ではないので三日は無理にしても、三年もたったらそろそろ「刮目して見」てもらえるよう、私も成長しなければ。と気を引き締めたところで支部委員としての挨拶とさせていただきます。

ながさか かずしげ (京都大学経済学部図書室 整理掛)

● 西野 紀子 (支部報編集)

引き続き支部委員を務めさせていただくことになりました。今期で3期目となります。普段は理工系の図書館でレファレンス業務と利用者教育を担当させていただいております。本学では理工学部のほか、情報理工学部、生命科学部、薬学部と広範囲にわたる研究が行なわれていますので、レファレンスカウンターに寄せられる質問も多岐に渡っており、日々、四苦八苦しながら調査をしております。京都支部においては、今期もみなさんが今、手にされている支部報の編集を担当させていただきます。毎号楽しみにしていただけるような誌面作りに努めてまいります。投稿原稿、大歓迎いたします！京都支部までお寄せ下さい。今期もどうぞよろしくお願い致します。

にしの のりこ (立命館大学図書館サービス課 (委託職員))

● 野間口 真裕 (支部報印刷と発送 / 組織・財政)

あっという間に1年が過ぎ、支部委員も2年目に入りました。今年も支部委員として、会員の皆様が大学図書館の諸問題を考えることへの一助となれましたら幸いです。

この1年でも社会が大学が図書館が職場があっという間に変わっていきました。変化が速い時代、本当に自分一人の勉強ですべての領域をカバーすることはできないなと思います。京都支部の目標と同じように『総会、研究交流会、支部報、メーリングリストによって会員相互の交流を深めていくとともに、新たな仲間を増やしていきたい』、そして楽しく前向きな議論ができればと願っています。

どうぞ1年よろしく願いいたします。

のまぐち まさひろ (京都大学経済学研究科図書室)

● 山下 ユミ (副支部長 / Web サイト運営 / 組織・財政)

あなたはどのような時に、大図研に入会して良かったと思いますか？

私は支部委員 2 年目です。財務担当なので、会員の皆さんからの会費をお預かりして本部に送ったり、入金を確認して支払済の人をチェックしたりします。委員会では支部会費の使い道も考えます。会員が入会して良かったと思う方法としては、何をどうすればいいのでしょうか。

京都支部では、支部報の発行やワンディセミナーの開催などを行っています。「入会して良かった」と全員が実感するのはなかなか難しいと思いますが、今年もいろいろと繰り出していきたいと思います。

私個人は「支部委員の経験」がひとつの答えだということを感じています。イベントや研修会に行けばいろんな人に会って話をするができますが、一緒に一つの組織を動かす機会というのはそんなにはないものです。京都支部は若い人が多くて活気があって楽しいですし、入って良かったなと感じる日々です。

支部委員の多くが多分この感覚を共有しているので、他の人にもセミナーの運営に関わってもらったり、企画に参加していただいているかどうかという提案が委員会でされています。一種の「支部委員体験」で大変お勧めなので、今後実現した折には、ぜひ参加してみてくださいね。もちろん支部委員になってくださるのもウェルカムです！

やました ゆみ (京都府立医科大学附属図書館)

第 41 回全国大会(大阪)

大学図書館問題研究会全国大会の参加報告

長坂 和茂

ご存じの方も多いと思いますが、大図研は毎年 1 回全国大会という形で、図書館に関わる最新の動向や問題を講演・議論する場を設けています。今年は 3 日間の日程で、初日である 28 日は 大図研の全体会と、土出郁子氏 (大阪大学附属図書館)、福山栄作氏 (島根大学附属図書館)、天野絵里子氏 (京都大学附属図書館) の研究発表、濱田信夫氏 (大阪市立環境科学研究所) の記念講演を行いました。2 日目は、学図書館史、コレクション構築、リカレント教育、図書館システム、機関リポジトリ、利用者支援、出版・流通、図書館経営の 8 つの分科会を午前と午後に 4 つずつ同時進行で行いました。3 日目はオープンシンポジウムとして「大学図書館員は消耗品か? -業務委託・市場化テストをめぐって」という内容で議論を行いました。さらに、他にもいくつかの自主企画が行われました。今回はそのうちのいくつかの内容について支部委員の長坂より報告させていただきます。(金森)

支部委員の長坂です。8/28-30 に行われた大学図書館問題研究会全国大会の参加報告をいたします。なお、内容については、[yurikamome:596]で報告した内容に加筆修正を加えた物ですので、京都支部の皆様はそちらも併せてごらんいただければと思います。

・一日目：全体会

全体会では会の運営について京都支部からも意見を出しました。私からは会費の納入が 100%になったと仮定しても赤字になるほど支出 (特に印刷費) が多い現状に対

する確認やその対策案について。野間口さんからは会報よりもセミナーなどの活動をメインとする方向にシフトすることで会員増を目指すべき、という提案がされました。また、赤澤支部長から京都支部によるセミナーの広報活動について報告がありました。

大図研の運営に関してご意見あれば、支部委員 (kyoto@daitoken.com) に伝える、dtk の ML (dtk@daitoken.com) に直接投稿するなどの方法がありますので、気軽にお知らせいただければと思います。

・二日目午前：図書館システム分科会（第4分科会）

今回の大会参加者 170 名のうち、80 名が集まった最大の分科会でした。

メインスピーカーは「あの」しずくラボの小野永貴さん。サブスピーカーとして京都大学附属図書館の渡邊英理子さんからお話をいただきました。

私はこの間、ひたすら Ustream 配信を行っており、じつはあまり中身を覚えていません。なので、是非録画した動画を見てみてください。また、Twitter でも #dtk41sys のハッシュタグでいろいろつぶやかれていました。

<http://www.ustream.tv/recorded/9215454>

<http://www.ustream.tv/recorded/9217209>

<http://www.ustream.tv/recorded/9218550>

・2日目昼休み：自主企画 ビブリオバトル@dtk 大阪

こちらも、Ustream で録画してあります。そちらをご覧ください。

<http://www.ustream.tv/recorded/9220047>

どの本が一番気に入ったのでしょうか。ちなみに私は少し遅れて着いたために、会場が満員で入れず、隣の部屋で Ustream を受信する環境を整えて「第二会場」を作り、そこで聞いていました。

通常 Ust を見る場合、自宅などでの受信をイメージしますが、このような使い方もあることを実際に体感したことで、Ust にはまだまだいろいろな使い道があるのではないかと感じました。

・2日目午後：出版・流通分科会（第7分科会）

午後からの出版流通の分科会では、まず花園大学文学部の増田のぞみ先生から大阪のマンガ文化の歴史について「大阪バック」という雑誌を中心に説明していただき、後に電子書籍を使った経験などについて、参加者から発言する形を取っていました。

私が気になったのは電子書籍の絵本の話で、電子絵本というのは単純に絵本を電子化したものではなく、動画やアニメをつかって、子供が楽しめるようなものになっているそうです。同じように通常の電子書籍も時代が進むにつれて紙媒体の持っていた形にとらわれず、電子書籍の特長を活かした形に変わっていくのではないかと感じました。

・三日目：オープンシンポジウム

例年大図研の大会の三日目は分科会でしたが、今回はオープンシンポジウムということで、業務委託や市場化テストについて、パネリストの皆さんに話していただきました。パネリストは国立大・私立大・委託業者・委託スタッフといろいろな立場の方で、それぞれの考え方を知る事が出来、興味深いものになりました。

また、今回のシンポジウムが「業務委託＝悪 正規職員＝善」という単純な二元論に終始しなかった点は、今後の図書館における業務委託について考える上で忘れてはならないポイントです。

業務委託を行う際には、仕様書を詳細に書く必要があるとの話を受けて「業務委託

を行う際には、委託する側にも仕様書策定という今までとは違う能力の開発が必要になるのではないかと感じました。

さて、来年の全国大会は東京で行われます。今年来られなかった方も来年は是非、参加してみてください。

未筆ながら、dtkのMLのメンバーが300人程度となっており、加入率が低いようです。もし、まだdtkのMLに入っていない方で、興味のあるかたは支部委員会のメールアドレス (kyoto@daitoken.com) などにご連絡下さい。よろしくお願いします。

大図研京都支部忘年会のご案内

いよいよ、今年も終わりに近づいてきました。今年も大図研京都支部では忘年会を開催いたします。今年の忘年会はワンディセミナーの懇親会を兼ねておりますが、忘年会からの参加も歓迎いたします。普段はセミナーなどに参加されていない方も、ぜひ、お気軽にご参加ください。

日 時：2010年12月18日(土) 17:15～(2時間半を予定しています)

場 所：輝庭(かがやきてい) [阪急京都本線烏丸駅 23番出口スグ]

参加費：大図研会員 / 非会員ともに4,000円程度

(参加費は当日、会場でいただきます。)

申込方法：当日の飛び入り参加も歓迎しますが、事前に参加人数を把握するため、お近くの支部委員または支部委員メーリングリスト (kyoto@daitoken.com) まで、お知らせください。皆様の参加をお待ちしております。

(参考 URL : <http://r.gnavi.co.jp/k378000/map/>)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2010年度(大図研会計年度2010.07 - 2011.06)に入っておりますので、2010年度の会費の納入をお願い致します。また、2009年度以前の会費をお納めいただけない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) まで。